平成 29 年 10 月 1 日

ところ会　10 月 OP 行事案内

新河岸から鶴瀬を歩く(シリーズ-2)

10 月オプション行事として東武東上線の新河岸駅から新河岸川とその周辺の史跡を歩きららぽーと富士見経由でバスで鶴瀬駅まで行きます。途中ふじみ野市立福岡河岸記念館を見学します。

記

■日　　時：平成 29 年 10 月 26 日（木）　雨天順延

■集合場所：西武新宿線 本川越駅改札口前

■集合時間：8 時 35 分(所沢駅発 8:12 西武新宿線に乗車願います。本川越着 8:35)

■見学場所及び時間：

新河岸駅出発(9:00)⇒河岸跡(舟運遺構)➡ 九十川合流点➡白山神社➡ふじみ野市立福岡河岸記念館➡昼食(11:00～12:00) ➡権現山古墳群➡大杉神社➡伊佐島河岸➡砂川樋管➡蛇木河岸➡ららぽーと富士見(ティータイム)➡バスで鶴瀬駅➡ふじみ野駅➡川越市駅➡徒歩➡本川越駅 15:50 頃（解散）

■昼食：昼食･･宿場食堂　〒350-0014　埼玉県川越市古市場 341-13
電話 049-235-0389

■見学先簡単ガイド（各種ホームページから）

❑川越の河岸跡（舟運遺構）

川越五河岸とは扇・上新河岸・下新河岸・牛子・寺尾をさす。

❑川越舟運とは

新河岸川の舟運は、江戸時代（寛永 15 年/1638）に仙波東照宮が火災で焼け川越藩がその再建用資材を江戸から運ぶ為に新河岸川を利用したことで始まったと言われています。翌年の寛永 16 年、川越城主「松平信綱」は、荒川へと続く新河岸川を改修。水量確保のため、荒川の交流地点まで「九十九曲り」

と呼ばれるほどのたくさんの屈曲をつけ、江戸-川越間の舟運体制を整えました。

川越舟運で運ばれていたものは様々。

- 川越から：醤油・綿実・済・木材など
- 江戸から：油・瓦物・砂糖・塩・荒物・干イワシなど

上新河岸

下新河岸

❑九十川合流点

上記写真は左より合流点から新河岸川下流を臨む、排水機場、九十川上流を臨む、排水門

❑白山神社

祭神:伊弉冉尊(イザナミ尊)
創建年代は不詳。当社はもともと福岡村治右衛門の持ちであり、治右衛門が当地に移るとともに遷座したとされ、元禄頃には鎮座していたとされる。

❑ふじみ野市立福岡河岸記念館

川越を起点とし、東京都北区の岩淵水門先で隅田川に合流する新河岸川。江戸時代から昭和初期まで、河岸場が設置され、江戸と農村を結ぶ舟運の中継地としてにぎわいました。川越からは米・麦など農産物を運び、帰りは農村へ肥料などを運びました。

往時の様子を伝える貴重な文化遺産である舟問屋「福田屋」を福岡河岸記念館として公開。主屋、離れ、文庫蔵が現存し、帳場や当時の生活道具などを展示しています。

上記写真は左より全景、帳場、福岡河岸を臨む

❑権現山古墳群

権現山古墳群（ごんげんやまこふんぐん）とは、埼玉県ふじみ野市滝 1 丁目に所在する古墳時代初頭の古墳群。

1 基（2 号墳）の前方後方墳と 11 基の方墳が確認されている。「権現山」の名称は、「東照大権現」すなわち、徳川家康が鷹狩りの際に（古墳であるとは知らずに 2 号墳の墳丘の上で）休憩したという伝承が地元滝地区に伝わっていることに由来する。

1985 年（昭和 60 年）以降、10 回近い試掘と発掘調査によって、「権現山」とよばれていた権現山古墳群第 2 号墳は、古墳時代前期初頭の 3 世紀末～4 世紀初頭の前方後方形をした古式古墳（前方後方墳）であ

ることが判明した。2 号墳の全長は 32m で、後方部は、20m 四方のほぼ正方形を呈する。前方部は、墳丘がほとんどないか低い状況で、後方部との接合部分は細く、前方に向かって大きく開く、バチ形であって、初期古墳の特徴をよく示している。2 号墳の周囲には 11 基の方墳が造られ、新河岸川を見おろす標高 20m 前後の台地上に一群の古墳群を形成している。7 号墳の墳丘は、ほぼ完全に近い形で残り、1 号墳、2 号墳は一部削られているものの良好に残っている。

2 号墳（北西より）

7 号墳

❑大杉神社

埼玉県ふじみ野市中福岡にある小さな神社である。1878 年（明治 11 年）に建てられた。本社は茨城県稲敷市にある大杉神社で、祭神は大物主大神である。

新河岸川の舟運に従事した人々が、船の安全を願って明治 11 年（1878 年）に建立した。以後、川を上り下りする船頭の信仰を集めた。船頭は毎年二人を選んで本社に送り、船中安全のお札をもらう慣わしであった

神社は新河岸川の西岸に位置し、道ではなく川を向いている。鳥居も川面に向いてうつむくように少し傾いている。かつては新河岸川を通行する人が、船上から神社に賽銭を投げて安全を祈ったという。鳥居には「大杉宮」と記された額がある。

神社が祀られる前から、この場所には船中安全・村中安穏を祈願する人がいた。小さな境内の裏側には、文政 9 年 （1826 年） に建て

られた石碑があり、大杉宮、船玉宮、水天宮の三社大明神を鎮座たてまつる旨が記されている。

❑伊佐島河岸（勝瀬河岸ともいう）

伊佐島橋から上流にむかって左側、つまり右岸側には、伊佐島河岸があった。さらに上流の新伊佐島橋の左岸側には、旧新河岸川(ややこしい言い方)があるが、下の写真右のように現在は水は流れていないようだ。

❑砂川樋管

所在地：新河岸川、富士見市勝瀬　建設：昭和２年(1927)　６月

砂川堀が新河岸川に合流する地点に昭和２年に築造された、新河岸川の増水時に砂川堀への逆流を防ぐための構造物です。大正～昭和初

期にかけての新河岸川改修の際に築造された樋管などのコンクリート製構造物で、現存するものはこの砂川樋管だけです。蛇島調節池ができてからは本来の役目は終えていますが、河川改修時の構造物が造り

なおされていくなか、その当時の構造物として残る貴重な近代化遺産です。

❑蛇木河岸

上南畑河岸とも呼ばれ、伊佐島の下流右岸の位置にあり、宝永２年（１７０５）の頃すでに河岸場が成立していたといわれています。船問屋は前田清吉問屋、市川船問屋、安藤船問屋（その後船問屋株を譲り「新問屋」となる）がありました。この河岸場では、主に大井（ふじみ野市）、三富（三芳町）、所沢、鶴瀬（富士見市）の荷を扱いました。現在、河岸跡には集会所のほか、「稲荷大権現」や「不動尊」の石仏などがあります。また、ここには「蛇木の渡し」のあったところでもあります。

蛇木の地名は、伝承によると、新河岸川が洪水になると、沢山の蛇が木にとぐろを巻いていたところから地名となったといわれています。

以上